

# 「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016」 の調査結果に対するリクルート進学総研所長 小林浩の見解

リクルートでは2002年から隔年で、高校生の進路選択に大きな影響力を持つ、高校の進路指導教員の悩みやキャリア教育の現状について調査している。

## 1) 高校進路指導教員の9割が、進路指導が難しい

高校の進路指導教員に進路指導の難易度を聞いたところ、9割超が難しいと回答。経年でみても、高止まりしていることがわかります。

## 2) 困難の要因上位は「入試の多様化」がトップとなり、「教員が進路指導を行うための時間の不足」が続いている

進路指導が困難な理由について、最も大きな要因を3つを選んだもらったところ、「入試の多様化」がトップ。つづいて、「教員が進路指導を行うための時間の不足」となっています。リーマンショックや東日本大震災後の2012年調査と比較すると、「家計・家族環境の悪化：家計面について」が減少し、「入試の多様化」「教員が進路指導を行う時間の不足」が上昇しています。景気が回復基調に向かう一方、多様な入試に対し、生徒一人ひとりに対応する指導に加え、学校の現場では、教育改革の流れを受けた新しい取り組みなども加わっています。そのことが、現場の先生方の“時間不足”の要因につながっていると考えられそうです。

## 3) 大学・短大などに期待することの上位は、「入試の種類の抑制」「わかりやすい学部・学科名称」で変わらず、「講義・研究に触れる機会の増加」が上昇

高大接続・連携について大学・短期大学・文部科学省に期待することは、前回調査同様、1位が「入試の種類の抑制」、「わかりやすい学部・学科名称」が上位となっています。現在、学部名称は700以上存在し、そのうちの約6割が「うちの大学だけの唯一名称」と言われています。学部・学科名称から学ぶ中身がわからない、しかし偏差値だけで大学を選ぶのではなく、一人ひとりの適性や興味・関心に合わせた進路指導を行いたい。だからこそ、大学の中身である「実際の講義・研究に触れる機会の増加」が上昇しているように思います。

## リクルート進学総研 所長 小林 浩 (こばやしひろし)

PRODUCED BY RECRUIT

### <プロフィール>

1988年(株)リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や『ケイコとマナブ』商品企画マネージャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向(教育問題担当)、会長秘書、大学ソリューション推進室長などを経て、2007年4月より現職。文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会委員。現、リクルート進学総研所長 兼、『リクルートカレッジマネジメント』編集長



<リクルート進学総研とは> URL : <http://souken.shingakunet.com/>

高校生、進路選択に関する調査研究機関として、以下の活動を行っています。

- ・全国の大学、短期大学、専修学校など、高等教育機関の経営層向けの専門誌『カレッジマネジメント』の発行
- ・高校の先生を読者対象とする進路指導、キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』シリーズの発行
- ・高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査の実施や社外に向けての情報発信

### <取材にお答えできます>

- ・大学をめぐる政策動向全般について
- ・高校生の進路や将来についての価値観・大学のブランド力
- ・高校生、保護者、高等教育機関についての各種データ・マーケット動向や事例など、高校生～大学経営まで教育に関わる内容について幅広くお答えします。

【本件に関するお問い合わせ先】

[http://www.recruit-mp.co.jp/support/press\\_inquiry/](http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/)

図表1

■進路指導の難易度【時系列比較】（全体／単一回答）

	(%)	難しい計		難しいとは感じていない	その他	無回答	難しい計
		非常に難しいと感じている	やや難しいと感じている				
2016年 全体 (n=1105)		30.4	31.6	61.5	8.3	0.1	91.9
2014年 全体 (n=1140)		31.6	34.6	58.4	8.3	0.6	90.0
2012年 全体 (n=1179)		34.6		56.6	6.7	0.7	91.2

図表2

	2016年	2014年	2012年
1位	入試の多様化	進路選択・決定能力の不足	家庭・家庭環境の悪化：家計面について
2位	教員が進路指導を行うための時間の不足	教員が進路指導を行うための時間の不足	進路選択・決定能力の不足
3位	進路選択・決定能力の不足	学習意欲の低下	学習意欲の低下

図表3

■高大接続・連携について大学・短期大学・文部科学省に期待すること【時系列】（全体／複数回答）：上位15項目

